

大東市統計書

令和4年版

(2022年版)



大東市

は し が き

大東市統計書(令和4年版)をここに刊行いたします。

本書は大東市の人口、産業、福祉、教育、文化などの各分野にわたる基礎的な統計数値を明らかにするとともに、今後の発展を期して編集したものです。

市民の皆様をはじめ多くの皆様に、本書を行政、経済および社会における基礎資料として広くご活用いただければ幸いです。

また、今後の更なる内容充実のためにも、皆様には一層のご指導をよろしくお願いたします。

結びに、本書の編集に当たり詳細な資料のご提供など、格別のご協力を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和6年3月

大東市長 東坂 浩一

市名と市章の由来

大 東 市 章



大東市は住道町、四条町、南郷村の2町1村が合併して、昭和31年4月1日に誕生しました。大阪市の東部に隣接する衛星都市として飛躍的發展が期待されるという明るい展望のもと、市制のスタートを切りました。過去の栄光と「光は東方より」という将来への明確な展望を託して「大東市」と命名されました。市章は、「大とう」の文字をデザイン化したもので、公募によって定められました。

昭和31年8月制定

大東市民憲章

(昭和46年10月1日制定)

大東市は飯盛、生駒を東にのぞむ美しい風土と人情のもとに、魅力ある近代都市へと発展するまちです。

わたくしたちは、このまちに住む市民であることを誇りとし、わたくしたちの手で、ほんとうに住みよいまち大東市を建設するために、この憲章を定めます。

わたくしたち大東市民は

1. 自然を愛し、環境をととのえ心をあわせて美しいまちをつくりましょう
1. たがいに尊敬し、はげましあい心をあわせて明るいまちをつくりましょう
1. ことばをただし、礼儀をまもり心をあわせて秩序あるまちをつくりましょう
1. 健康で、働くことによるこびをもち心をあわせて豊かなまちをつくりましょう
1. 伝統をたつとび未来をそだて心をあわせて文化のまちをつくりましょう

市の木

さんごじゅ

スイカズラ科の常緑高木で3～10mの高さになります。秋には赤い実をつける大変美しい木で実が赤く熟し、珊瑚のように見えることからさんごじゅと名付けられています。この木は水分を多く含んでいるため、生け垣などに防火樹として植えられ、まちを美しく飾りまた守る木として親しまれています。

昭和46年10月制定



市の花

菊

菊は「古今和歌集」や「源氏物語」などに登場し、以後春の梅、桜と並んで秋の花の代表として広く親しまれています。中国から薬草として日本に渡来したものが、後に観賞用となったもので、市内の各家庭でも気品と芳香を誇る菊栽培が行われています。

昭和46年10月制定



大東市民のうた

(平成13年11月3日制定)

作詞 西村由美子
作曲 貫輪久美子

♩ = 108 C C/E F G7 Em Am

い い も り や ま の し き を つ た え る い ろ も よ う

Dm7 G7 Em Am Dm7 Dm7/G G7 C

わ た し の ふ る さ と わ た し の や ま う つ

Am7 Em7 Am7 Em7

く し い し ぜん に か こ ま れ て い き る だ

F G7 Em7 Am7 D D7/F# Gsus4 G

い す き だ い と う こ こ ろ の ま ち さ

C7 Em F G Em7 A7

あ ふ か せ よ う あ し た の か ぜ を だ い と う に

21 Dm7 G7 Em7 A D7 G7 C

や さ し く つ よ く い つ ま で も

一. 飯盛山の四季を伝える 色模様
わたし

私のふるさと 私の山
うつくし自然に 囲まれて生きる

美しい自然に 囲まれて生きる
大好き 大東 心のまち

大好き 大東 心のまち

さあ 吹かせよう
あしたの風を 大東に

やさしく 強く いつまでも

二. 御領水路 ぽつかり浮かぶ 小さな田舟
わたし

私のふるさと 私の川
ながれきし 刻んで生きる

長い歴史を 刻んで生きる
大好き 大東 豊かなまち

さあ 広げよう
あしたの夢を 大東に

明日の夢を 大東に

大きく 高く いつまでも

三. 野崎観音 静かに響く 鐘の音
のさきかんのん しずか ひびかぬ おと

みんなのふるさと みんなの誇り
あふれる愛に 包まれて生きる

大好き 大東 未来のまち

さあ 築こう
あしたの平和を 世界に

明日の平和を 世界に

まぶしく 高く いつまでも

大東市の位置

本市は東西7.5km、南北4.1km、面積18.27km²である。

東は山岳部で奈良県に、西は工業地帯で大阪市に接している。

また、北は門真市、寝屋川市、四條畷市の住宅地帯に、南は東大阪市の市街地に接し、河内平野のほぼ中央に位置している。

市役所の位置：東経135°37'34" 北緯34°42'32"

東端：東経135°40'42" 北緯34°42'28"

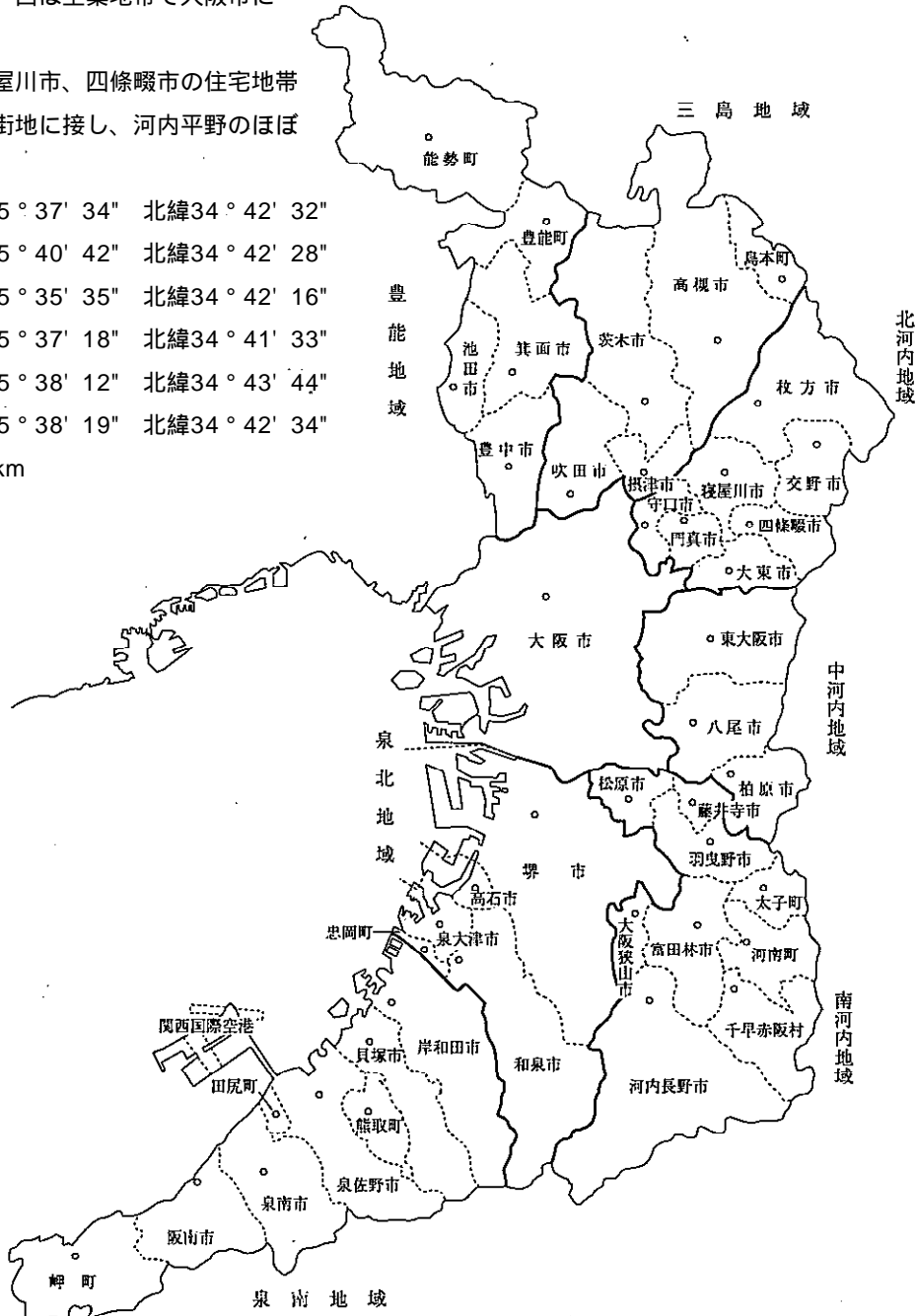
西端：東経135°35'35" 北緯34°42'16"

南端：東経135°37'18" 北緯34°41'33"

北端：東経135°38'12" 北緯34°43'44"

重心：東経135°38'19" 北緯34°42'34"

周囲長：25.9km



市の沿革

前史時代、当市域の西部一帯は深い入り海であって、生駒山の西側崖下まで波が打ち寄せていたものと推測されます。その後、土地の隆起と、沖積世になって急に盛んになった淀川、大和川など諸河川の堆積作用によって、次第に陸化されていきました。

祖先が河内平野に集落を構え、農耕生活に入ったのは、大和朝廷成立の前後だといわれています。この地は、石の産地としても有名で、古来「生駒石」「日下石」として名を馳せた石を産出し、大阪を経て全国各地に運ばれていきました。山麓一帯に古墳が多いのも、大和朝廷に近いこともありましたが、古墳を築く良質な石に恵まれていたところによるとも考えられます。

やがて、この古墳造りの技術が郷土開発に活かされて生まれたのが、河内讃良郡の条里制で、その遺構は現在も残っています。中垣内が一条、南条（寺川、野崎）が二条、三条、そして北条が四条、五条にあたり、各条に呼び名とその変化したものが今に伝えられています。

中世には、この地が都に近かったため、幾度か戦乱の地と化し、特に東高野街道沿いの村々は、「四条縄手の合戦」をはじめ、しばしば兵火にかかり、古社寺、古文書類は灰じんに帰したのです。

戦国時代、「飯盛城」を完成させたのは、戦国の武将三好長慶でした。山城としての規模は抜群であり、その支城が三箇など各地に築かれたといわれています。

当地の名が遠くヨーロッパにまで知れ渡ることになったのが、戦国末期の「三箇キリシタン」の活躍でした。城主三箇殿は三つの教会を湖沼の中之島に建てたと記されています。

私たちの先祖は、よりよい郷土づくりのため、開発や開拓を古来より随時進めてきましたが、地形的にもっとも大きな変化をもたらしたのは、江戸中期に行われた大和川のつけかえと、それによる深野池、新開池の消失、その後の新田の誕生でした。

中でも特筆に値するのは「深野新田」の開発が、本願寺難波別院によって行われた事業であったことです。各地から開拓民が参加し、その多くはこの地に定着して農業生産の基礎を築き上げていきました。後に開拓事業は、鴻池屋などの大商人の手に移行して進められるようになりましたが、稲作を中心として綿、菜種などの一大産地帯を作り上げ「天下の台所」として重要な役割を果たしました。

また、寝屋川と恩智川の合流点であった角堂浜に劔先船の船着き場が作られるにいたって、周辺一帯は大阪と奈良を結ぶ交通の要衝となり、農産物の中継・集散地として栄えました。

こうして、市域の農民の生活は向上し、庄屋・年寄り・百姓代の村役人を選出し、村単位の生活を主とするようになり、21の村落を形成しました。見渡す限りの菜の花畑と屋形船といえば、唄にも歌われた野崎まいりののどかな情景です。各地から参詣にやってくる善男善女で野崎観音は華やかな賑わいを見せました。

江戸期の21村は、明治22年の市町村制施行で四条、住道、南郷の3村を形成しました。

明治28年には、片町から四條畷まで浪速鉄道が開通しました。この鉄道は、明治40年に国有鉄道片町線となり、舟に代わる陸の幹線として、大阪都心部との関係は一層密接となり、都市化への第一歩を踏み出したのです。

明治、大正時代、飲料水を寝屋川、恩智川に頼るため避けられない伝染病から人々を救ったのは、明治初期に実を結んだ灰塚浄水場の建設でした。当時の社会情勢からみて、驚異に値する事業でした。

戦時中の紡績工場への都市ガスの配管、その後の阪奈道路、中央・外環状線の事業化などは工場、事業所、住宅などの著しい進出を促しました。このような中で、昭和31年に住道町、四条町、南郷村の2町1村の合併で、人口3万人の大東市が誕生しました。

昭和40年代には、大阪の衛星都市として急速な宅地化が進み、人口が急増し、商業施設なども充実しましたが、昭和47年、50年と2度にわたり集中豪雨による大きな被害に見舞われました。

この水害を教訓に、下水道事業の推進を最重点課題とし、住道駅前再開発さらに道路、公園、教育施設、福祉施設など都市基盤の整備を進めました。また、市民の価値観の多様化、文化的指向の高まりの中、昭和62年には総合文化センターも建設され、文化都市としても歩みはじめました。

国際化、情報化が進む中、平成元年のJR片町線住道駅付近の高架化、平成9年のJR東西線開通など新たな要因を背景に、人の交流が活発に行われ、また心の豊かさを実感できる社会を目指すまちづくりを展開し、人口約12万人を擁する市へと大きく成長してきました。

令和3年度には市制施行65周年を迎え、まちづくりの理念として掲げた「あふれる笑顔、幸せのまち大東づくり」に基づく取り組みの成果が芽吹き始めてきました。公民連携の手法で公園や市営住宅等エリア帯をリニューアルした morineki（もりねき）をはじめ、子育て総合窓口「ネウボランドだいとう」の設置、ICT教育の推進等、新しい時代の要請に応えつつ、「住み続けたいまち」を創造し、今後もさらなる発展に向けた取り組みが進んでいます。

市民の指標

<p>世帯</p>  <p>1世帯当たり 2.0人</p>	<p>出産</p>  <p>1日当たり 2.0人</p>	<p>死亡</p>  <p>1日当たり 3.7人</p>	<p>婚姻</p>  <p>1日当たり 1.3組</p>
<p>人口密度</p>  <p>1平方キロメートル当たり 6,420人</p>	<p>転入</p>  <p>1日当たり 11.8人</p>	<p>転出</p>  <p>1日当たり 12.9人</p>	<p>離婚</p>  <p>1日当たり 0.6組</p>
<p>交通事故</p>  <p>1日に 1.1件</p>	<p>水道給水量</p>  <p>1日1人当たり 290リットル</p>	<p>J R 利用客</p>  <p>市内3駅の1日平均 52,852人</p>	<p>犯罪</p>  <p>1日に 3.7件</p>
<p>救急出動</p>  <p>1日に 21.4件</p>	<p>ごみ処理</p>  <p>1日1人787グラム排出</p>	<p>火災</p>  <p>19.2日に1件</p>	<p>都市公園</p>  <p>1人当たり 2.0平方メートル</p>
<p>市税</p>  <p>1人当たり負担額 14万6千円</p>	<p>製造品出荷額等</p>  <p>1日に 10億9千万円出荷</p>	<p>商業の販売額</p>  <p>1日に 5億4千万円売上</p>	<p>小中学校敷地面積</p>  <p>1人当たり 41平方メートル</p>

注1) この表は、本統計書に掲載されている最新データをもとにしたものです。

注2) 世帯、人口密度、「一人当たり～」は、住民基本台帳に基づく人口(令和4年12月末日)より算出。

小中学校敷地面積の生徒数は8,019人として算出。

注3) 都市公園は、面積239,800㎡として算出

利 用 上 の 注 意

1. 各統計表の数字は、全て特別の表示、注釈がない限り、「大東市」を区域としたものであり、調査の時点に基づくものです。
2. 数字の単位は各表とも左上に明記し、特別なもの、または項目ごとに異なるものは、表頭内に掲げました。
3. 資料の出所名は各表の下部に掲げました。
4. 調査資料の時点、期間については次のとおりです。
年 次----- 1月から12月まで
年 度----- 4月から翌年3月まで
5. 数字の単位未満は原則として四捨五入したため、総数とその内訳の合計は必ずしも一致しません。
6. 統計表中の一般的な記号の用法は次のとおりです。
「0」 ……単位未満
「-」 ……該当数字なし
「…」 ……不明・不詳・算出不能の数
「×」 ……該当数字の公表を差し控えたもの
「△」 ……減少
7. 第4章 工業、第5章 商業は大阪府が公表する数字と相違があり得る。
8. 統計資料に疑義がある場合または、さらに詳細な数字が必要な場合などには各資料の出所機関または政策推進部秘書広報課に照会してください。

総目次

- | | |
|------|----------|
| 第1章 | 土地・気候・人口 |
| 第2章 | 国勢調査 |
| 第3章 | 事業所 |
| 第4章 | 工業 |
| 第5章 | 商業 |
| 第6章 | 農業 |
| 第7章 | 交通・通信 |
| 第8章 | 電気・ガス・水道 |
| 第9章 | 保健・衛生 |
| 第10章 | 公安 |
| 第11章 | 福祉 |
| 第12章 | 建設 |
| 第13章 | 教育 |
| 第14章 | 財政 |
| 第15章 | その他 |

目 次

第1章 土地・気候・人口

- 1 土地の地目別面積（課税分）
- 2 土地利用の現況
- 3 気 象 概 況
- 4 人口分布表（人口ピラミッド）
- 5 人口・世帯数
- 6 外国人登録人口
- 7 人 口 動 態
- 8 町丁字別人口・世帯数
- 9 年 齢 別 人 口
- 10 大阪府内市区町村別転入転出者数
- 11 都道府県別転入転出者数

第2章 国勢調査

- 12 国勢調査人口・世帯数
- 13 常住人口・昼間人口
- 14 住宅の種類・住宅の所有関係別一般の世帯数・世帯人員等
- 15 労働力状態別15歳（5歳階級）以上人口
- 16 年齢（5歳階級）・男女別15歳以上配偶関係
- 17 世帯の家族類型別一般世帯数・一般世帯人員
- 18 世帯人員別一般世帯数・世帯人員
- 19 施設等の世帯の種類（6区分）・世帯人員（4区分）別施設等の世帯数・世帯人員
- 20 産業大分類別・従業上の地位・男女別15歳以上就業者数
- 21 産業大分類別15歳以上就業者数
- 22 常住地による従業・通学市区町村別15歳以上就業者・通学者数
- 23 従業地・通学地による常住市区町村別15歳以上就業者・通学者数
- 24 町丁字別人口・世帯数

第3章 事業所

- 2 5 産業大分類別事業所数・従業者数
- 2 6 従業者規模別事業所数・従業者数
- 2 7 産業大分類・市町村別事業所数
- 2 8 町丁字別・産業大分類別事業所数・従業者数

第4章 工業

- 2 9 製造業事業所数・従業者数・製造品出荷額等
- 3 0 従業者規模別事業所数・従業者数・現金給与総額等
- 3 1 産業中分類別事業所数・従業者数・製造品出荷額等

第5章 商業

- 3 2 商店数・従業者数・年間商品販売額等
- 3 3 産業小分類別商店数・従業者数・年間販売額等

第6章 農業

- 3 4 農家数・（販売）農家世帯員数・経営耕地面積
- 3 5 経営耕地面積規模別農家（経営体）数
- 3 6 農地転用状況

第7章 交通・通信

- 3 7 J R各駅乗客数
- 3 8 加入電話数等
- 3 9 自動車登録台数
- 4 0 主要線別交通量

第8章 電気・ガス・水道

- 4 1 電灯・電力
- 4 2 都市ガス
- 4 3 上水道

第9章 保 健・衛 生

- 4 4 ごみ処理状況
- 4 5 し尿処理状況
- 4 6 医療施設数・医療従事者届数
- 4 7 環境衛生施設数
- 4 8 主要死因別死亡者数
- 4 9 予防接種状況

第10章 公 安

- 5 0 車種別交通事故発生状況（第一当事者）
- 5 1 交通事故状況・信号灯数
- 5 2 交通災害共済の加入・給付状況
- 5 3 火災共済の加入・給付状況
- 5 4 火災発生状況
- 5 5 犯罪発生件数・検挙状況
- 5 6 救急活動の状況

第11章 福 祉

- 5 7 国民年金加入状況
- 5 8 国民年金給付状況
- 5 9 生活保護状況
- 6 0 国民健康保険事業状況
- 6 1 国民健康保険給付状況
- 6 2 国民健康保険加入状況
- 6 3 保育所・認定こども園・地域型保育施設の状況

第12章 建設

- 6 4 用途別新築家屋件数
- 6 5 河川（一級河川）
- 6 6 道路・橋梁
- 6 7 下水道
- 6 8 市営住宅建設状況
- 6 9 地域広場・児童遊園
- 7 0 都市計画公園・その他の都市公園

第13章 教育

- 7 1 学校施設状況
- 7 2 幼稚園の状況
- 7 3 市立小学校の状況
- 7 4 市立中学校の状況
- 7 5 中学校卒業者の進路状況
- 7 6 高等学校の状況
- 7 7 高等学校卒業者の進路状況

第14章 財政

- 7 8 決算額
- 7 9 一般会計歳入決算額
- 8 0 一般会計歳出決算額
- 8 1 市税歳入決算額・市民1人当たり負担額

第15章 その他

- 8 2 選挙人名簿登録者数
- 8 3 選挙の執行状況
- 8 4 市職員数
- 8 5 大東市組織機構図
- 8 6 主要施設一覧表